

インドネシアの金利引き下げについて

2015年2月18日

2月17日（現地時間）、インドネシア中央銀行は定例の金融政策理事会を開き、政策金利であるBIレート（Bank Indonesia レート）を0.25%引き下げ、7.50%とすることを決めました。また、翌日物預金ファシリティ金利も0.25%引き下げ5.50%としましたが、貸出ファシリティ金利は8.00%に据え置きました。2014年11月の臨時理事会において政策金利の引き上げが決定され、その後は政策金利が維持されてきました。今回も据え置きとの見方が大勢となる中、約3年ぶりとなる利下げを決定しました。

《利下げの背景》

予想外の利下げ実施の背景としては①景気減速、②インフレ沈静化が挙げられます。

① 景気減速：インドネシアの2014年の実質GDP成長率は10～12月期は前期比でマイナスとなり、年間では+5.02%と2010年以降の最低水準となりました。

経済成長率は3年連続の鈍化となりましたが、同国政府は2015年の成長率目標を+5.7%と景気回復を目指しており、景気刺激の観点から今回の利下げを決定したと考えられます。

なお、中央銀行も2015年の経済成長率見通しを+5.4～5.8%程度としています。

② インフレ沈静化：原油価格の下落を受けて、1月の消費者物価指数の伸び率は前年同月比で6.96%と前月の8.36%から低下しました。

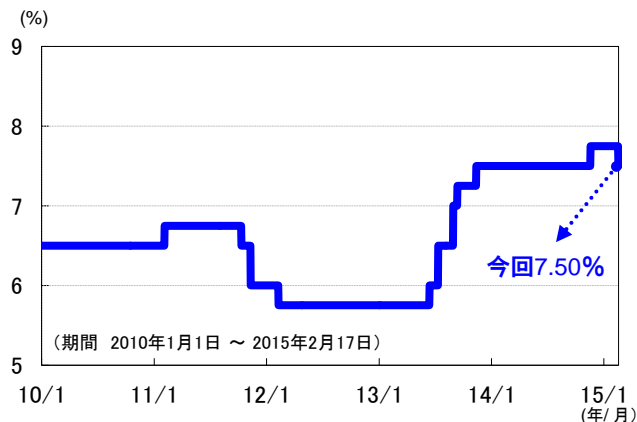
中央銀行は2015年のインフレ率はターゲットとする3～5%の下限に落ち着くとの見方を示しており、このことも今回の利下げ決定の背景と考えられます。

《今後の見通し》

今回の利下げは市場の予想外でしたが、インドネシアの金融、為替市場は比較的落ち着いた動きとなっています。経常赤字に対する懸念は残りますが、中央銀行は今回の利下げに関して同赤字を抑制するとの方針に沿った決定であるとしています。

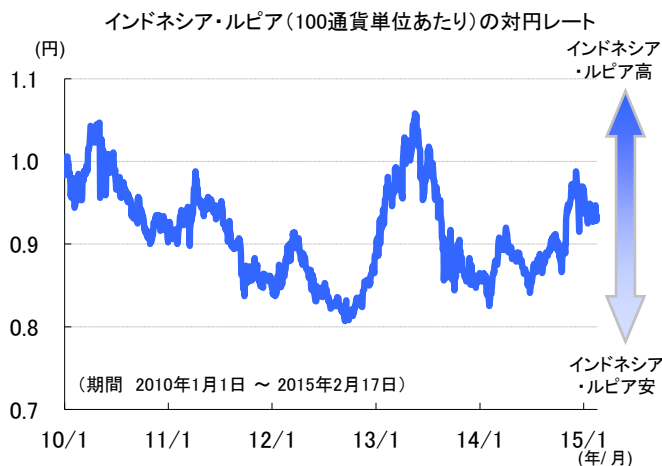
今後は同国の景気動向や金融政策に加え、米国の利上げ開始による世界的な資本の動きの影響も注目されます。当社でも引き続き同国に関わる市況動向を注視してまいります。

《インドネシアの政策金利》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

《インドネシア・ルピアの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。